

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

| | |
|--------------|---|
| カテゴリー | シンポジウム(公募演題) |
| タイトル | 強化型在宅療養支援病院・診療所—富田林市の取り組み |
| 日時 | 平成25年3月31日 9:00~12:00 |
| 会場 | 第6会議室 |
| 所属先 | 1) 坂口医院、2) 医療法人昭仁会 小川外科、3) 医療法人正清会 金剛病院、4) 堀野医院、富田林医師会 |
| 共著者 (敬称略) | 坂口 隆啓 1)、小川 雅昭 2)、赤松 幹一郎 3)、堀野 俊男 4)、富田林医師会 |
| 企画趣旨 | <p>目 的：在宅医療における病診連携</p> <p>対象と方法：平成24年4月 医療保険改定において強化型在宅療養支援病院・診療所が創設された。これは2025年に向けた政府の考えで、高齢化が進む中、高齢者がピークになる2030年頃年間の死者数が160万人に達すると推測している。そのうち医療機関での死者数が89万人、自宅で亡くなる方が20万人、介護施設が9万人、その他が47万人と推測している。しかし現在のままでは約47万人の方が最後を迎える場所がないという計算になる。前回の改定でも在宅での看取りを増やす為の点数が設定されたが、現状、看取りの件数が増えなかった。そこで、在宅での看取りを増やす為、今期改定で強化型の在支診・在支病が創設された。</p> <p>[富田林市の取り組みとして]</p> <p>富田林市には5つの病院がある。内2病院は200床以上の基幹病院であり、残りの2病院も精神科療養と療養病院であった。</p> <p>金剛病院は、急性期から亜急性期、療養、在宅、介護と地域医療を目指していた事もあり、以前より在宅支援病院の届出を行っており、今回の改訂で強化型在支病の届出を行う事とした。しかし、富田林市で在宅を行い病床も有している医療機関が少なく、市内の診療所では「強化型の病床あり」での届出が困難であった。そこで小川外科 小川院長、金剛病院 赤松理事長が医師会の理事であったこともあり、医師会の要請で市内の在宅を行っている診療所すべてが「強化型の病床あり」で届出が出来ないかと取り組みが始まり、富田林医師会主導により説明会等を行い、各病医院に届出を募集した。</p> <p>結 果：金剛病院（60床）、小川外科（18床）、16診療所（無床）の届出があった。</p> <p>3つのエリアにグループ分けを行なった。</p> <p>Aグループ（金剛地区）： 医療法人昭仁会 小川外科 医療法人 今城クリニック 医療法人 岡本内科クリニック</p> |

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

金剛団地診療所児島医院

坂口医院

植島クリニック

医療法人友心会 中島医院

矢野クリニック

Bグループ（富田林地区）：

医療法人正清会 金剛病院

もりい内科クリニック

山村クリニック

堀野医院

上野医院

Cグループ（千早赤阪・河南・太子地区）：

医療法人正清会 金剛病院

前田クリニック

新田クリニック

くぼ内科

医療法人やすらぎ会 植田診療所

中村医院

月1回第3月曜日午後2時半よりケースカンファレンスを行なっている。

また同時に各医院の在宅患者の診療情報提供書をグループ別に小川外科、金剛病院に提出している。

平成24年7月に無床診療所の届出1件あり、Aグループは小川外科と8診療所になった。医師会主導により各医院に書類作成依頼し近畿厚生局指導監査課に取りまとめて届出を行なった。

考 察：各病院・診療所医師の在宅医療に対する考え方、対応が明確になり、在宅医療における病診連携が強化された。